



遠近新聞
第九號



定價一匁

西垣文庫
文庫 10
7265
7



持
文庫10
7265
7

遠近新聞第九号

慶應四年閏四月廿九日

○閏四月八日出山形町人よりの書状写
壬四月二日庄内人數繰出充の通

白岩慈恩寺詰

天童攻方

先陣	軍師	軍大将	惣大将
		十石	二十八百石
		石原 藤助	酒井 兵部
		加谷野清助	
		中村 清助	
		中村治郎兵衛	

新徴組千人漆

遠近新聞

第九号

四十二

西垣文庫

5718

左沢詰

山形之使者

堀 平太夫

五百人奉

石井重輔

百井庄輔

笹仁九郎

惣勢メ三千人

右六十里先志津本道寺慈恩寺左沢水沢五ヶ所
陣取り田井仁田講延辺川岸へ日丸の旗押立大炮の
響繁く天童方も河岸場へ向一兩日打合双方の人
足二人宛手負同四日山形の二番手長崎村へ達
寺村は出張柏倉も山形と同所固居り處元庄内

降参致居り風岡も有之へ共官軍へ其色を見
居り所山形藩の官軍へ属しと庄内にて疑い哉同日
朝玉無大炮を打り所山形勢驚玉込の鉄炮を打り哉
よて庄内方大怒又々玉込の鉄炮打發山形勢士分二
人討死致柏倉足輕一人討死同所にて味方三人討死
庄内方二人討死又々同刻寺津の落合と所にて
山形と庄内の寄手千二百人と打合庄内方三人討死
山形勢の五人討死二ヶ所にて七人討死敗軍引取同
刻庄内勢天童の城裏へ大炮打掛藩中必死の覺悟極
以所御殿火の手上真最中双方切合打合天童勢自

城廻家中と焼拂十分戦双方討死多分有之城下り庄
 内勢大炮もて焼立互に所々戦有之老森も百姓家不
 残兵火も相成天童家老吉田大八主従五六人もて敵
 七人討取大勢も取囲も終に遁も引取由庄内方三
 十人程討死織田方七八人討死の由併小勢と大勢故
 一時を勝利も成ゆへ共終に落城散乱致夫も庄内方
 人数を纏め長瀨陣屋に引取ゆ又々山形に寄来ゆ振
 子も舟仙臺官軍へ追々早打を以注進も相成六日筑
 州勢八十人程笹屋越もて光明寺に着七宿も同日
 六十人斗到着追々官軍出張も成三四百人斗も成

赤勢揃ひ無之哉待合ゆ由昼夜市中見廻毎夜松明と
 焚二三日大炮の音波に達寺の辺と覺へ間近ゆ故
 筑州勢光明寺も六日夜下條口銅町口兩所へ操出諸
 勢待受一度も庄内へ討入ゆ振子も四日一窪の目
 高野天童講延四野一度も火の手も寄手と見ゆ山
 形市中ハ不殘家財相片舟近村へ持出婦女老弱も殘
 立退大心配も法坐ゆ場未も至りても金子無心言掛
 れ困入ゆ近辺所々炮火有之今も庄内も操出寄来
 ゆり市中丸焼も可相成も心配仕ゆ今日も猪鬣長瀨
 辺戦争有之ゆ我火も手上天童落武者も追々集り筑

州勢一相加り以今日迄の荒増申上以猶追々注進可申上以已上

○信州須坂表より来状の写

関東脱走の歩兵越後路の飯山にち廻り筑摩川安田渡船を相困メ居ル人数凡五六百人川手前口松代出張木嶋原に上田六川此方も出張以堀家表廿五日戦争お始尤も川を隔る車にて格別の儀も毎之振子に成坐以飯山町焼失廿六日之噂に城攻い多し以処拓代勢川を渡り横を歩出し歩兵敗走り事以成坐以已上

憤懣

無名氏

秦國情不測、張儀多危詞、懷王聽不聰、上官逞猜擬、内被姦邪破、外被強敵窺、國事日益非、愁思乱如絲、宗臣不得志、偷生復為誰、抱石沉汨羅、誰知汨羅悲、

○紀事一則 英書より訳出也

昔一澳地利の都并ナは法朗西好の諸侯たりけり家屋園池に多法朗西風を造り箆笥、机、椅子等より勝手道具に至るまでことごとく法朗西より買集む然るは法朗西より買求る時計或日什掛と有りこれは大に驚き并ナの時計師某を召て之を修復せしむ

されど卒に於ての時計師は其の元より本意は非
 ざれば時計師に向て汝此時計を并の時計と純を
 かしはとは巴勒の都西より買求めたる物ありと云
 ぞ時計師思ふに笑ひけり何故に笑ふやと問ふと時
 計師はぐりより内部に卒に於ての時計師某製と書
 を示しけりば其の作りたる物ありや
 と大に愧ぢ入りたりとぞ世に此の如きの固陋の
 人少しと云

三友堂主人 譯

○ 松本落城の風説有之は得共全く虚説あり

徳川□□水戸表へ退は後も弥謹慎恭順の道を相尽
 以上の全至誠より相出先非悔悟致し上の非常の寛
 典を以江戸都城へ召返追て上京をも可なり 仰出
 敵慮の昔 大摠督府へ沙汰有之は付諸道進軍
 の官軍早く引上 大摠督府へ帰陣有之は極 大摠
 督官 沙汰の事

閏四月

東海道大摠督府

参謀

東山北陸奥羽

官軍隊長中

此書付ハ未^レト詳^クあ^ラざ^レトモ得^ルコト随^テつて報^告告^ス

○ 叡^山并^{高野}の僧^侶佛^門の事^ニ付^テ神^道の議^論沸^騰甚^ク
以^テ不^穩ざ^ル噂^ハり^り

